

### 37 古墓標 富木島町北島

玄猷寺から南に入ったところにヒメモン酒店がありますが、その北側の道端に墓標が一つ建っています。風化によって刻まれた文字を読み取ることはできませんが、古い形式を示しています。この墓標は、桶狭間の合戦で織田信長に破れた今川義元の家来が落ち延びてきて、息絶えたのをここで供養したものとか、女の旅人がここで産気づき難産で死んだ供養塔とかいわれています。

### 38 庚申塔 富木島町南島

庚申の日の夜に眠ると、体の中にある三尸（三匹の虫）が罪を天帝に告げて命を縮めるとい中国道教の教えが、平安時代に伝わり江戸時代に盛んになりました。このため、庚申待を営んで徹夜する風習がありました。この塔はその風習にちなむもので、姫島村の入口に享保12年(1727)に建てられました。



製塩土器  
角のようにとがったところを砂に差して立て、まわりから火をくべました。

### 39 松崎貝塚遺跡 市指定史跡 大田町松崎

市役所西方の名鉄常滑線沿いの小高いところに、古代土器製塩の遺跡が広がっています。岩塩などの資源のないわが国では海水を煮詰めて塩の結晶を採っていました。まず、海藻を使って海水を濃縮して、専用の土器（製塩土器と呼んでいます）を使って濃縮した海水を煮詰めました。松崎一帯には、古代に使い捨てられた製塩土器のかけらがたくさん散っています。この塩作りに携わった人々が食糧として採ってきた貝の食べ殻もたくさん捨てられており、貝塚も形成されています。このほか日常生活に使われた須恵器や土師器の容器類や釣針などがたくさん出土しています。

知多半島、三河湾沿岸、渥美半島、三河湾の島々の海岸にはこうした古代土器製塩遺跡が数多く分布しています。松崎遺跡は、製塩土器の量が多いこと、操業期間が長いこと（約600年間に及んでいる）、生産区域が広いことからみて、知多における中心的な製塩遺跡であったと思われる。律令国家においては、この地方の人々に塩を納める「調」という税も課せられていました。



大宮神社のクスノキ

### 40 大宮神社 大田町上浜田

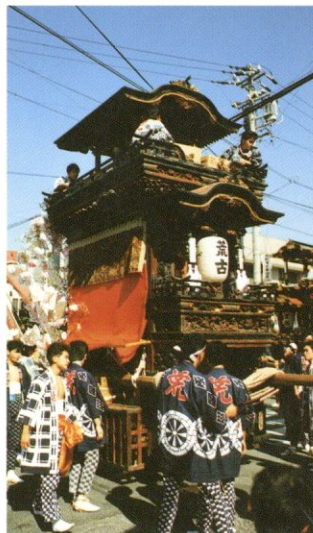
このお社は、大田川にかかる大宮橋の北側にある大田町の氏神様で、秋の祭礼（10月の第1日曜日）には4組の山車が引き出されます。創建は不明ですが、熱田神宮の分霊神として、かつては大宮明神と称していました。境内に、樹齢1,000年ともいわれる幹回りが10mもある大きなクスノキ（市指定天然記念物）があります。

### 41 弥勒寺 大田町寺下

このお寺は、市役所の西の丘陵上にあり、寺伝によれば、天平勝宝元年(749)行基菩薩の開基といわれています。昔は七堂伽藍の大きなお寺でしたが、戦国時代にこの地を攻めた鳥羽城主丸鬼義隆の軍により火をかけられ、本尊と仁王尊像のみを残して焼失しました。その後、尾張二代藩主徳川光友公によって再建されました。本尊の弥勒菩薩座像（市指定彫刻）は室町時代、仁王像（市指定彫刻）は平安時代末期の作とみられます。境内の中央の八角の拝殿には、宝篋印塔がまつられており、霊験あらたかな供養塔として大正期から参拝客でにぎわい、このお寺をお参りするのに下車する名鉄太田川駅の駅舎もこのお寺の堂を模して造られたほどこです。

### 42 王塚古墳跡 大田町寺下

弥勒寺のある丘陵南側のふもとの大田川沿いに小さな祠があります。八坂瓊神社のお社で、王塚さんと呼ばれています。ここに直径15mほどの円墳が築かれていましたが、大正時代に大田から木庭へ通じる県道を改修したときに壊されました。祠の建てられている土台の石は、古墳の横穴式石室に使われていたもので、古墳には須恵器、管玉、直刀、金環などが副葬されていたといわれています。古墳自体は6世紀の末に築かれたものと思われる。



荒古組の山車



黒口組の唐子人形

### 43 大田町荒古組の山車蔵 大田町上浜田

大宮神社の境内地内に荒古組の山車蔵があります。天明2年(1782)に建造された山車（市指定有形民族文化財）が収められています。この山車のからくりは、唐子人形二体が蓮台を回すと、もう一体の唐子がせり上がって来て逆立ちをして鉦を叩きます。大宮神社の祭礼に水引き幕をかけて引き出されます。

### 44 大田町黒口組の山車蔵 大田町蟹田

大田町公民館の北に黒口組の山車蔵があります。文政10年(1827)に改造された山車（市指定有形民俗文化財）が収められています。この山車のからくりは、唐子がブランコをして太鼓を叩きます。大宮神社の祭礼に水引き幕をかけて引き出されます。